つるさき

発行所
鶴 崎 神 社
〒701-0304
早島町早島 2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成 29 年い草のジャンボ干支（トリ）

荒魂（アラミタマ）とは

当社のご祭神は温羅（うら）との戦いに勝利した大吉備津彦命（おおきびつひこのみこと）ですが、正式には大吉備津彦命荒魂となっています。

この「荒魂（あらみたま）」とはどんなものなのでしょう。神道の考え方には一霊四魂（いちれいしこん）という考え方があり、神様や人間の霊魂が一つの霊と四つの魂から成り立っているとするもので、一霊は直霊（なおひ）で、四魂は荒魂（あらみたま）、和魂（にぎみたま）、幸魂（さきみたま）、奇魂（くしみたま）とされています。

四魂の意味は左記の通り。

◆荒魂は「勇」勇猛に前に進む力。
◆和魂は「親」穏やかな働き。平和や調和。
◆幸魂は「愛」人を愛し育てる力。
◆奇魂は「智」観察力、分析力、理解力等の知性。

一霊の直霊は四魂のそれぞれの機能をコントロールする霊とされています。

ご祭神の大吉備津彦命に「荒魂」をわざわざつけているのは、ご祭神が勇猛で、前に進む力が顕著な神様という事を強調するためと思われます。

祭神名に「荒魂」をつけている代表的な例は、皇大神宮（内宮）の御正殿の裏に荒祭宮（あらまつりのみや）があり、ご祭神は天照大御神荒御魂となっています。

伊勢神宮ではご祭神の御魂の穏やかな姿を「和御魂」と申し上げるのに対して、時にのぞんで、格別に顕著なご神威をあらわされる御魂のはたらきを「荒御魂」と称えています。

安原伝兵衛物語 8

鳳泉寺は川魚店から少し離れた山麓にあった。長い石段は草が茂るままになっていた。参詣者が少ないようだ。山門をくぐると広い庭の向こうに寂し気な本堂が見える。建物の周りと庭に人影は見あたらない。本堂や裏の僧庵などを訪ね回ったけど誰もいない。本堂の蔀戸から内部を窺うけど暗くて何も見えない。川魚店で熱心に勧められたので、どうしてもご本尊を拝観したい。

本堂の東側にちょうど一服するのに適当な場所を見付けた。陽蔭でときおり涼風が山裾から吹いてくる。立てかけてあった蓆をひろげて横になった。蝉時雨が裏山から聞こえてきたが、眠くなってそれは遠ざかって行った。どれほど時が過ぎたのだろうか、本堂の影が長く延びても起きる気配はない。

ぐったりと横になった伝兵衛を二つの坊主頭が覗いている。鳳泉寺の住職正覚と雑仕だ。三次の檀家から法要を終えて戻ったところだ。「これこれ若い衆よ」と正覚が優しく声をかけるけど、熟睡している伝兵衛の耳には届かない。雑仕が腹立たしげに、肩を強く揺さぶって起こした。やっと目覚めた伝兵衛に、「御師が何用があって来たんじゃ断りもなく」と雑仕はえらいけんまくだ。

正気に返ってやっと事態が判った。寺には無用の御師の恰好が誤解を与えたようだ。勝手に入って眠ってしまったことを素直に詫びた。その上で、早島から石見銀山へ出稼ぎに行くに当たって鶴崎神社の神主が道中安全のために御師の衣裳を与えてくれただけの俄御師で全く他意はない。鳳泉寺の霊験あらたかな十一面観音普薩のことを聞き是非拝観したいと訴えた。

若過ぎる御師姿の伝兵衛の話に正覚は胸を強くうたれた。

（立派な体格はしていても未だどこかあどけない。遠国から銀掘りなんぞの荒仕事に行くなんて複雑な事情があるのだろう。御仏にすがりたいと思うならかなえてやるのが僧の義務じゃ）

「近頃ではご本尊さまを拝観したい人も少なくなってしもうた。それなのに遠国から訪れてくれたとはありがたいこと、さあ儂に従ってくるがよい」

不服そうな雑仕を尻目に、いそいそと伝兵衛を本堂に案内してくれた。本堂は暗く静謐で伝兵衛の日常とは全く懸け隔たる空間だった。西向きの蔀戸の隙間から沈む夕陽の残光が床に縞目模様を描いた。須弥壇に明かりが点り、暗闇から十一面観音菩薩が浮かび上がった。お顔の化粧が美しい。

「もっと近くで拝観したらいい」と、正覚が促した。

正座して仰ぎ見ると、明かりが揺れる度に観音さまの表情が変わる。切れ長の目は瞬き、ぽってりとした唇は幽かに動く。ふくよかな頬には笑窪があり、巻毛の黒髪は豊かで魅力的で、この瞬間、御像は血の通った生身の女性として伝兵衛の純真で初心な心を把んでしまった。まるで物の怪が乗り移ったようだ。正覚はその様子に満足した。

「十一面観音菩薩はまだまだ多彩なお顔をされる。三十三相と言ってな、弱き人間をその悩みに応じてお姿を変えて救ってくださる。例えば、千手観音、合掌観音、延命観音、施薬観音、り水観音などじゃ」

（り水観音とはどの様なお顔なんじゃろ？）

「ご住職さん、り水観音とはどねいなお顔か教えてつかあさい」

「お顔か？多分清冽な泉に浮かぶ蓮花のような顔をなさっておられるじやろうな」

（そねいな美しい観音さまか…度々お会いしたいもんじゃ）

未だ伝兵衛は気付いていないが、この時躯の奥で観音信仰が芽生えていた。本堂で過ごした時間は濃密で、夜の帳が降りているのも二人は忘れていた。

「夕餉の支度ができてます」と雑仕が正覚を呼びに来て伝兵衛の姿を見付け「御師さん未だござったのか、はよ往なんと遅いぞね」と、邪険に言った。

「いやいや今夜は泊まって明朝立つがいい」

「それじゃ夕餉が足りませぬ」

「儂の膳を分けおうてもよい。昼は檀家で馳走になったことだし、伝兵衛さん遠慮はいらん。もうちいっと話を聞かせてくれんか」

正覚は何がなんでも伝兵衛を引き留めたかった。雑仕は驚いた。こんな俄御師を客人揃いする住職をはじめて見た。

夕餉は量も少なくすぐに終わった。

だが伝兵衛にはすごく温かく心のこもった夕餉だった。正覚はどうして鳳泉寺に辿り着いたのか興味があるらしく、伝兵衛に次々と質問をした。

伝兵衛は今日の出来事である川魚店の女主人から、備中高松城の近くの庄屋吉兵衛、郷里の鶴崎神社の神主、石見銀山の山師錦織弥太夫などいろいろな出会いを話した。

折り紙とイ草で作り16年

鶴崎神社　正月、干支の工作好評

今年の干支の酉（とり）じゃな、毎年よう考えとるよなあ！　清々しく明けた平成29年元旦。穏やかな正月日和に恵まれ、鶴崎神社には早朝から初詣客がひっきりなしに訪れました。

参拝を済ませた後、必ず立ち寄るのが、新春ムードを盛り上げる干支の工作の前です。今年もイ草で作った止まり木に乗る高さ2㍍の大きな鶏が登場しました。感心しながら酉年の開運を願って記念撮影する家族連れらの順番待ちができました。

年末には「年賀状に刷り込みたい。まだできませんか」という人など、毎年楽しみにしている人が多くいます。2月中展示しますが、今ではすっかり鶴崎神社の正月の風物詩となっています。

太田浩司宮司らが前年11月末から半月以上かけて、デザインを考え材料の針金を用意して組み立てます。神社にとって一年中で最も忙しい迎春準備の合間を縫っての作業は大変ですが、「今年は360度の回転式にしました。日によって鶏の向きを変えられるのですよ」と、太田宮司は隠れたアイデアを披露します。

製作中／平成28年12月

平成29年の正月も初詣客に人気を呼んだ草のトリ

同28年4月の幹事会の席上、ある幹事が「ある年の正月に中東を旅行中、衛星放送で偶然鶴崎神社の干支の工作を見ました。まさか、中東で見るとは…」という報告があり、世界のニュースになっているのかと驚いたそうです。

注目を集める干支の工作はどのようにして生まれたのでしょうか。

神社にもっと若者を呼び込もう！という太田宮司の発想で、日本一の絵馬で勝負！と意気込み奈良の橿原神宮へ見学に行くと、クレーンで吊り下げたジャンボ絵馬を見てびっくり。ならば県内一を！と岡山神社で研究。行きついたのが干支の折り紙でした。

太田宮司が鶴崎神社に赴任して3年後の同13年末に、翌年の「午（うま）」のジャンボ折り紙を境内に飾ったのが最初。折り紙の本で研究、幼稚園の先生や紙問屋に折り方や紙質、配色を相談するなど、妻と手探りで厚めの紅白の和紙を駆使して折り上げました。これが新聞、テレビで一斉に報道されたことから一躍有名になりました。

2年目からは氏子や、折り紙が趣味の光森康郎さん＝岡山市＝に協力してもらい、十二支ひと回りを達成しました。

イメージを変えようと、材料をかつての早島の特産品・イ草に代えて今回で4回目、初作品からは通算16年です。最初、町内の農業体験場で育てたイ草、前回から前副総代長・安原益重さん（同28年11月死去）が提供してくれた畳表の端切れを利用しています。

太田宮司は「畳表の端切れはまだ何年分もあるので助かります。製作費？1万円もかかりませんね。皆さんに注目してもらえるので、来年もまた工夫しなくちゃあ」と笑顔で話していました。

（取材／鶴崎神社総代・佐藤豊行）

国旗と国歌の額奉納

春日神社（倉敷市浜町）宮司松浦謙二氏がこの度、兼職の倉敷市市議会議員を退任するにあたり、倉敷都窪支部の全神社（六十七社）に国旗と国歌の額を奉納されました。

総代の異動

左記地区の総代さんが四月一日付けで就任されました。

中帯江		片　田	
新任	死亡	新任	退任
大森　真澄 倉敷市中帯江二九〇	藤原　格仁 倉敷市中帯江一三三	岡本　冨士夫 早島町前潟一〇五九ー一九	赤木　敏明 早島町早島二〇〇九ー五

供膳祭と神幸祭 ユーチューブに
高梁川流域の伝統行事紹介に登場

鶴崎神社の由緒ある供膳祭（きょうぜんさい）と神幸祭がインターネットで公開されています。

倉敷市が周辺9市町と取り組む「高梁川流域デジタルアーカイブ事業」の祭りや伝統行事をテーマにした動画が完成、鶴崎神社の行事が平成29年1月、他の19件とともにネットにアップされました。

映像は参道から境内を映しながら、鶴崎神社の由来を説明。伝統行事「供膳祭」のお供え物、特にユニークな押し抜き御飯「御盛相（おもっそう）」の作り方と行事本番、さらに秋祭りの神幸祭を、太田浩司宮司や安原昇総代長の談話を交え5分間にまとめています。

ケーブルテレビなど加盟の「高梁川流域情報ネットワーク」が前年に取材したものです。高梁市の「備中たかはし松山踊り」や笠岡市の「白石踊」など高梁川流域の代表的な伝統行事に交じり、鶴崎神社では岡山県内でも珍しい供膳祭と、150人に及ぶ神幸祭の大行列の様子が紹介されています。

氏子の皆さま、動画投稿サイト「ユーチューブ」の「高梁川流域デジタルアーカイブ」、または鶴崎神社公式HPの「秋季大祭・神幸祭動画」をクリックして同神社の誇る伝統行事をぜひご覧ください。

（鶴崎神社総代・佐藤豊行）

YouTube の画面

祭事暦

五月二十日（土）［午後七時］
八幡神社春季大祭
（露店あり）

五月二十一日（日）［午前十時］
鶴崎神社春季大祭
【供膳祭】

七月三十日（日）［午後五時］
夏越祭【輪くぐり祭】
（露店あり）

毎月一日（午前九時）月次祭

諸祈祷・出張祭の案内

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・病気平癒その他
◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・宅神祭・結婚式・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祈祷／出張祭は
予約
をお願いします。